

広報

# とまこまい

7月1日～31日

社会を明るくする  
運動月間

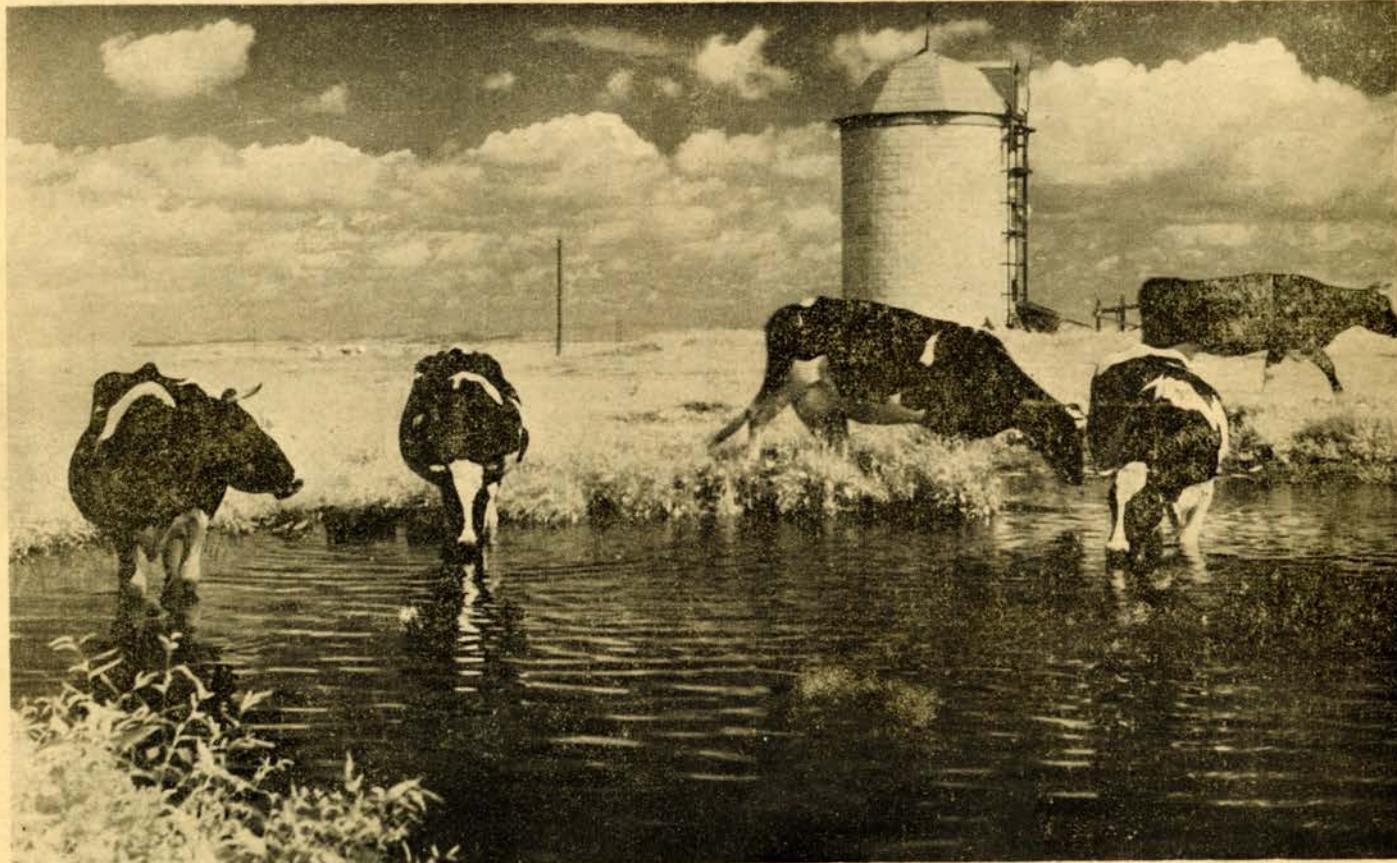
発行 北海道苫小牧市

編集 伊藤一男 印刷 苫小牧民報社

No.433 昭和40年7月10日

昭和28年6月10日第三種郵便物認可

毎月1、10、20日発行（1部5円）



勇払の牧場で

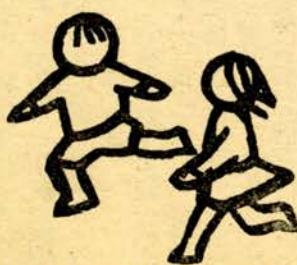
当市の農業は酪農を中心に 将來の総合的近代都市の需要にこたえようと その経営の合理化をすすめています

当市の乳牛飼養頭数は 10年前の約 700頭から現在は約1700頭と 2・4倍 1戸あたりの頭数は 2・9頭から8・2頭へと大きく前進しています

また牛乳の年間生産量も 10年前の 約 1400トンから4000トンへと2・9倍となっています

牛乳の6割はバターやチーズなどの乳製品 4割は市乳となっています

将来は 1戸あたり飼養頭数20頭 年間粗収入500万円の目標で 施策を進めています



国民年金は老後のためばかりではありません

ケガをしたり夫や生計中心者がなくなつたときは

障害年金・母子年金・遺児年金が

そのときから支給になります

保険料を滞納するといろいろな年金を受ける効力を失いますから  
忘れずに納入してください

いつか役に立つことがあります

〔第三種郵便物認可〕  
昭和40年7月10日

## 区画整理の調査設計へ

### あすを期待される開発の拠点

苦小牧港建設に伴う臨海工業地帯の造成が進められています。また、市勢の膨張発展に備えて生活基盤の整備も進められていますが、周辺地区の開発はどうなっているでしょうか。とかく、市街地中心に進められるようにみられている行政ですが、周辺地区的開発と、そこに住む人たちの福祉の増進のための施策があわせて行なわれています。今回は沼の端地区の状況をみることにしました。

『十年』 さて  
日のごとく います。  
でなく、二

十年一日の  
歩みの沼の  
端だった』  
取されてからは、火の消えたような  
さびれようでした。

ですが、この  
地区的人の  
診療所の設置、公営住宅の建設、

### 二沼の端地区をみる=

# 開発の手周辺地区へ

口は、十年  
前の約八百  
人から約一  
千六百人と  
二倍にふえ  
ています。

岩見沢、浦  
河、札幌、

室蘭を結ぶ道路網の整備も進み、さ  
らに区画整理もことしから調査設計

に着手し、将来の中小企業団地造成  
の計画と相まって、この地区は当市  
開発の重要な拠点のひとつとして、  
生まれ変わろうとしています。

また、小学校、中学校も近代的な  
校舎となり、住宅、水道、環境衛生  
等の施策もあわせて進められていて、  
住みよい沼の端としての将来が約束



始まった調査

### あすへ伸びる

沼の端は、戦前金山線といわれた  
鉄道の起点で、物資輸送の一拠点と  
なっていましたが、昭和十八年に撤  
収されながらは、火の消えたような  
さびれようでした。

戦後は、小学校の新築、市立病院  
の診療所の設置、公営住宅の建設、

港湾掘削の土砂で、埋め立て造成  
するもので、本年度は造成費約九千  
万円約十六万六千平方メートル(五万坪)  
が予定され、将来は約八十二万五千  
平方メートル(二十五万坪)が埋め立て造  
とされています。

港湾掘削の土砂で、埋め立て造成  
するもので、本年度は造成費約九千  
万円約十六万六千平方メートル(五万坪)  
が予定され、将来は約八十二万五千  
平方メートル(二十五万坪)が埋め立て造  
とされています。



ゆのみ

沼の端付近  
には、かん木  
の林が広がっ  
てあります。

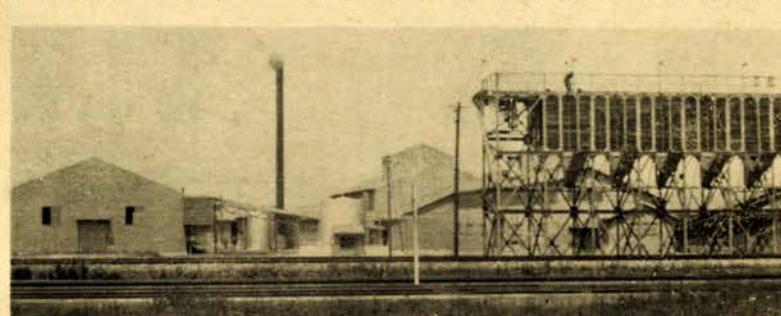
七月のころともなれば、黄緑  
の葉かけに黒味がかった紫色の  
実が鈴なりになっています。

にが味とすい味のまじりあつ  
た独特の味は、郷愁のかなしみ  
にも似ています。

『ゆのみ』あるいは「ハスカ  
ガラ」と呼ばれていますが、学  
名は「クロミノウケイスクグラ」  
となっています。

この地特有の植物で、開発途  
上にある当市にとって、残して  
おきたい植物のひとつとされて  
います。

沼の端に至る広路三  
中野地区より沼の端に至る広路三  
沼の端中学校



練炭生産工場

号線は、工業地帯における貨物輸送  
ならびに基幹産業の受け入れ体制か  
らも、その整備が急がれていました

が、今年、幅員二十尺、延長七千四  
百五十尺が舗装されることになり、三

年前から工事が進められていて今年  
度完成の予定です。

また、臨海部の中央を抜け、国道  
三十六号線の九十度カーブに結ばれ  
る広路四号路線は現在、室蘭土木現

務所の手により工事が進められてい  
てあります。

そのほか、数年中には一般国道、  
岩・苔三百三十四号線の舗装、なら  
びに浦河より国道三十六号線につな  
がる国道二百三十五号線など多くの  
道路が整備され沼の端は交通の要衝  
となるようとしています。

## 住みよい生活環境へ

### 公営住宅その他

公営住宅はすでに六十戸建設され  
ていますが、今年度は十八戸建設の  
予定で、すでに着工しています。こ  
とんど毎年この程度が建設される計画  
です。

そのほか、この地区には雇用促進  
事業団の建てた四階建ての事業団ア  
パート二むねがあり、約七十世帯の  
人たちが入居しています。

成される計画となっています。

その他、区画整理では勇払地区と  
ともにことしから同地区の調査設計  
が進められています。

沼の端地区には、ここ数年中に多  
くの企業があきましたが、そのおも  
なものは、建材ブロック生産工場、  
軽量型網、鉄骨組み立て加工工場、  
サイズ剤・紙力増強剤生産工場など  
その他製材工場があります。

これらの年間製品出荷額は約三千  
一百万円となっています。

### 簡易水道

沼の端への給水は、昭和三十一年

に開始されました。

に見込んで布設された給水能  
力も、三十九年の拡張工事により、  
現在居住人口の二倍近くの三千人  
分一日四百六十五ドンの給水能力と  
なっています。

に開始されました。待たれていたごみの処理は、八月  
から市の清掃車が従量制で集めに回  
り、清潔な環境となります。

### ごみの処理

人口の増加につれて、児童生徒の  
数も著しくふえていますが、小学校  
は、総工費約二千七百万円で明るく  
完備した新校舎と屋内体育館が建設  
されています。

中学校は、ことしの春総工費約三  
千八百万円で近代的な鉄筋コンクリ  
ート造り三階建ての校舎がお目見え  
しています。

十一月までには百四十一坪の屋内  
体育館も建設される予定です。

グラウンドは、小、中学校とともに  
整備され、明るく安全な環境となつ  
ています。



